

〔目的〕台湾は亜熱帯に位置しているため、上半身にまとう衣服よりも下半身の衣服に多様性がみられる。今回、男性の下半身装飾の中に信仰、呪術、生活意識、やその発達過程を見ることができた。

〔調査内容〕褌……苧麻の白っぽい褌もあるが、日常の生活意識から黒い褌も着用された。
腰巻……腰巻形態のものをも糸で飾る。

腰布……黒い長方形のものを巻きつける。黒という色に対する信仰的なものに、母系社会を示す美しい刺繍が施されている。お祭りの時には信仰、呪術と思われる方へという細長い布を重ねる。

脚絆式ズボン形態……平面の布を用いて円筒型の腰部と脚とをつむために脚絆式の構成性を考え出す。これがズボンのルーツと思われる。

帯……紐衣の発達、装飾化されたものと考えられ、呪術的に用いられたのではないが、

〔まとめ〕1. 男性の女装化は農耕生活における信仰と、母系社会を示している。

2. 衣服のルーツといわれる紐衣が装飾化されて帯として帯衣裏に用いられているか、これは信仰と呪術を目的としたものではないだろうか。

3. アミ族だけでなく、ヤミ族にもみられる色物の褌は前とかく可という意識よりも、ふさぐという意識で用いられたと考えられる。

4. 衣服形態の発達過程、すなわち褌→腰巻→腰布→脚絆式ズボン形態→ズボンとその移行裏りが帯衣裏の中に見出された。